



横浜市福祉サービス第三者評価

評価結果報告書

たいせつ保育園

平成31年1月

評価実施機関

特定非営利活動法人

よこはま地域福祉研究センター

目 次

実施概要.....	1
評価結果についての講評.....	2
分類別評価結果.....	4
評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重.....	4
評価領域Ⅱ サービスの実施内容.....	8
評価領域Ⅲ 地域支援機能.....	13
評価領域Ⅳ 開かれた運営.....	14
評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上.....	16
評価領域Ⅵ 経営管理.....	18
利用者家族アンケート分析.....	20
利用者本人調査.....	24
事業者コメント.....	26

◆ 第三者評価実施概要 ◆

事業所名	たいせつ保育園
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター
報告書作成日	平成31年1月9日
評価に要した期間	4カ月間

*評価方法

1. 自己評価 【実施期間：平成30年6月26日～11月15日】
 - ・職員会議で趣旨を説明後、個々のペースで自己評価をおこなった。
 - ・個々の自己評価をもとに、各クラスで話し合い、まとめたものを全体の会議で1項目ずつ確認した。
2. 利用者家族アンケート調査 【実施期間：平成30年10月27日～11月15日】
 - 配付：全園児の保護者（27家族）に対して、園から手渡しした。
 - 回収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。
3. 訪問実地調査 【実施日：平成30年12月20日、12月21日】
 - 第1日目
 - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
 - 午 後：書類調査／事業者面接調査（園長）
 - 第2日目
 - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
 - 午 後：職員ヒアリング調査（主任・保育士・調理職員）
事業者面接調査（園長、主任）
4. 利用者本人調査 【実施日：平成30年12月20日、12月21日】
 - ・訪問実地調査の1日は各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排泄、午睡の状況、登降園の様子等を観察。
 - ・主に観察調査を実施。

◆ 総評～評価結果についての講評 ◆

【施設の概要】

たいせつ保育園は JR 京浜東北線東神奈川駅・京浜急行仲木戸駅から徒歩7分、東急東横線反町駅から徒歩10分の神奈川県役所の前にあるビルの1階にあります。

たいせつ保育園は2016年（平成28年）合同会社TAISETSUによって設立されました。園は2006年（平成18年）に認可外保育園からスタートし、横浜保育室（2010年（平成22年）～）をへて、認可園に移行しました。同じ神奈川県に姉妹園が1園あります。

保育室はワンフロアになっており、奥に0歳児保育室があり、1歳児と2歳児の保育室に面して調理室があり、お互いの姿が見えるようになっています。1・2歳児クラスにはサンルームがあります。室内は木がふんだんに使われています。園から少し離れた園庭にプランターを置き、野菜や花を育てています。商業地域ですが、すぐ近くに公園や神社などがあり、自然にも恵まれています。

定員は29名（生後6ヵ月から2歳児クラス）、開園時間は平日（月曜日～金曜日）は7時30分～20時、土曜日は7時30分～18時30分となっています。土曜日は姉妹園との共同保育を行っています。

保育理念は「子どもの人権や主体性を尊重し子どもの最善の利益を守ります」「子どもにとってふさわしい生活の場となる安心して過ごせる保育所であるように努めます」「自分を大切にみんなを大切にするすべてを大切にする温かい心を養い心身ともに健やかに成長するように援助します」、保育方針は「ひとりひとりの状況や家庭、地域での生活の実態を把握すると共に安心感と信頼感をもって活動できるよう子どもの主体の思いや願いをしっかり受け止める」「生活リズムを大切に健康安全で情緒の安定した生活ができる環境や自己を十分発揮できる環境を整える」「個人差に十分配慮しながらひとりひとりの発達過程に応じて保育する」「相互の関係作りや尊重する心を大事にし集団における活動を効果あるものにするよう援助する」「自発的意欲的に関われるような環境を構成し主体的な活動や子ども同士のかかわりを大切にする」「保護者の状況や意向気持ちを受容し親子関係や家庭環境に配慮しながら援助する」「様々な体験や経験から多くの事を学び力をつけて主体的に生きていかれるよう転ばぬ先の杖ではなく、転んだ後の知恵をたくさんつけられるよう時には見守り先回りせず待てる保育をする」としています。

1. 高く評価できる点

●子どもたちは保育士に優しく受け止めてもらい、安心してありのままに自分を表し、園生活を楽しんで

子どもたちは、子どもらしく、素直でのびのびしています。どの子どもたちもその時々笑顔や泣き顔、困った顔など表情豊かに自分を表して過ごしています。保育士は、一人一人の気持ちに寄り添っており、抱きしめたり、膝にのせて話を聞いて気持ちを受け止めています。保育士は常に子どもの態度や表情、言葉での訴えに、子どもの反応を見ながらゆっくり言葉を選んで話しかけるなど、丁寧に対応しているため、子どもとの信頼関係が築けており、子どもたちは安心してありのままに気持ちを表し、園生活を楽

しむことができます。例えば、子どもたちは二人ずつ手をつないで散歩に出かけますが、自分がつなぎたい相手には別の友だちがいたりして、なかなか相手が決まりません。保育士はせかしたり、無理やり手をつながせることはなく、自分たちで選べるようそれぞれの気持ちを聞いて、それぞれが納得して相手をみつけ手をつなぐまで、時間がかかっても待っています。常に子どもたちは気持ちを受け止めてもらっているので、無理に我慢をしたり、顔をうかがったりすることなく、いつも素直にありのままに自分の気持ちを表すことができます。おもちゃなどの取り合いになる時も保育士に気持ちを代弁してもらい、納得したり、相手の気持ちにも気づいて、「あとで貸して」「いいよ、待ってね」と待ったり譲ったりできるようになってきています。保育理念の「自分を大切にし、みんなを大切にし、すべてを大切に作る温かい心」が育ってきています。

●保育士は方向性を共有し、連携して保育にあたっています

保育理念、保育目標を折に触れて確認しています。園長は職員会議などの場で、機会をみては理解を促すための取り組みをし、具体的に保育にどのように反映しているか、問いかけています。園での経験が長い職員・非常勤職員が多く、研修で理念や目標について取り上げるだけでなく、普段からお互いの保育観について話し合ったり、素直に自分以外の保育士の良い所などを認め合い、評価したりしています。定員が29名と小さな園なので、どのクラスの子どもたちのことも職員全員が知っていて、その日の活動状況に応じてクラスに応援に入ったり、子どもの保護者に声をかけたりしています。子どもの現在の発達についてや環境設定について等、会議だけでなく、常に話題にし、情報交換してより良い保育ができるよう心掛けています。栄養士や調理員とも保育士は話し合っ、食育をしています。園の職員全員が一人一人を大事にし、「転ばぬ先の杖ではなく転んだ後の知恵をたくさんつけられるよう」見守って保育にあたっています。保護者からの信頼も厚く、満足度は極めて高くなっています。

2. 工夫・改善が望まれる点

●計画的な人材育成に取り組まれることが期待されます

職員の定着率が高く、経験豊かな保育士が多いため、子どもたちに良い保育サービスを行うことができますが、園として系統だった人材育成計画がありません。個々の職員の資質向上に向けた年間の目標設定をして達成度の評価をしたり、保育士が自分で将来像をイメージできるような経験や職務に就いて求められる資質や役割等を文章化することが期待されます。安定した保育園運営のために、新人、中堅、ベテランのバランスよい職員配置を確保し、計画的に後継者を育成していくことができるように、今後は園の人材育成に対する考え方やそのための方法、キャリアアップの仕組みなどを人材育成計画として文書化し、計画的に人材育成に取り組まれることが期待されます。

●地域の子育て支援の充実が期待されます

園としても課題ととらえていますが、一時保育や交流保育、施設開放、定期的な育児相談など地域の子育てを支援するサービスや園の専門性を活かした育児講座の開催等は実施されていません。園のスペースにも限りがありますが、経験の豊かな保育士も多く、保護者の悩みに対応できる力があります。食育に関すること、絵本のことなど園の蓄積してきた専門性を今後は地域の支援ニーズに合わせて子育て家庭に還元していくことが期待されます。

◆ 分類別評価結果 ◆



3つ：高い水準にある / 2つ：一定の水準にある / 1つ：改善すべき点がある

評価領域 I 利用者（子ども本人）の尊重

評価分類 I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成



- (1) 保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したのになっており、全職員が理解し、実践しているか。
- (2) 全体的な計画は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。
- (3) 日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。

- 保育理念は「子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益を守ります」「子どもにとってふさわしい生活の場となるために安心して子どもを預けられる保育所になるよう努めます」「自分を大切に
みんなを大切に
すべてを大切に
温かい心を養い
心身共に健やかに成長するように
援助します」とし、保育方針は「1、ひとりひとりの状況や家庭、地域での生活の実態を把握すると共に安心感と信頼感をもって活動できるよう子どもの主体の思いや願いをしっかりと受け止める」2、「生活リズムを大切に健康安全で情緒の安定した生活ができる環境や自己を十分発揮できる環境を整える」3、「個人差に十分配慮しながらひとりひとりの発達過程に応じて保育する」4、「相互の関係作りや尊重する心を大事にし集団における活動を効果あるものにするよう援助する」5、「自発的意欲的に関われるような環境を構成し主体的な活動や子ども同士のかかわりを大切に」6、「保護者の状況や意向気持ちを受容し親子関係や家庭環境に配慮しながら援助する」7、「様々な体験や経験から多くの事を学び力をつけて主体的に生きていかれるよう転ばぬ先の杖ではなく、転んだ後の知恵をたくさんつけられるよう時には見守り先回りせず待てる保育をする」として、利用者本人を尊重したのとなっています。職員会議で理念について話し合ったり、内部研修で、理念に基づく「竹のようにしなやかな心とは？」のテーマで話し合ったりして、園長は職員が理解しているか確認しており、職員も理念を理解して日々の保育をしています。
- 全体的な計画は、保育理念、保育目標・方針に基づき、養護、教育、健康、人間関係などの項目ごとに作成しています。家庭の状況や周囲の環境を考慮し、子どもの最善の利益を第一義にしています。
- 全体的な計画に基づき、各年齢ごとに指導計画を作成しています。保育士は、子どもたちに問いかけ、子どもの表情や態度、反応などから子どもの意思を汲み取るようにしています。
- 全体的な計画は4月中旬の懇談会で保護者に配布、説明しています。

評価分類 I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- (1) 入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。
- (2) 新入園児の受け入れ時の配慮を十分しているか。
- (3) 子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。
- (4) 乳児保育(0歳児)において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか。
- (5) 1歳以上3歳未満児の保育において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか。

- ・0歳児・1歳児の早生まれ児については、入園説明会の時に保護者と個別面談を実施しています。離乳食の進み具合、食べられる食材、1日の生活リズム等について聞き取っています。また、月齢にかかわらず、必要があれば面談をしています。健康台帳に保護者に予防接種や既往歴などについて記載してもらい、既往歴やアレルギー食など、特に注意が必要なものは全職員に周知しています。
- ・入園初日には1日保護者に一緒に過ごしてもらい、親子共に園生活の不安をとりのぞけるようにしています。その後状況に応じて慣らし保育を行っています。0,1歳児の新入園児に対しては、主に授乳、食事の介助や午睡時の担当の保育士を決めたり、心理的拠り所になる物も持ち込みをできるようにして、個々の状況に合わせて柔軟に対応しています。また、連絡帳を用いて情報交換をしています。
- ・各年齢ともに年間指導計画と月間指導計画、週案を作成しています。毎週、毎月振り返りを必ず行っており、子どもの発達や状況に応じて翌週、翌月の計画に反映しています。
- ・乳児保育においては、保育士が愛情豊かに優しく語りかけたり、子どもたちは素直に気持ちを表現しています。保育士は表情から「嬉しかったね」「嫌だったね」と言葉に置き換えたり、共感しています。室内は安全で清潔に保たれ、子どもたちの発達にあった興味が満たされるよう、つかまり立ちできる柵や棚には自由に取り出せるおもちゃや絵本があります。
- ・1歳以上3歳未満児の保育において、木がふんだんに使われた室内は温かみがあり、子どもたちの育ちに合わせて、基本的な生活習慣が身につくように排泄や手洗い、着替え等の環境が整えられています。稼働式の柵で仕切りを作ったり、作り付けのベンチがあったり、サンルームをじっくり遊ぶスペースや絵本を読むコーナーにしたり、床の板を外して水遊びをする場所を作ったり、室内の環境を工夫するほか、散歩に行き全身を使って遊ぶ等、生活や遊びが充実するよう配慮しています。
- ・職員会議のほか、クラスで子どもの発達や遊びに関して常に話し合い、環境設定に気をつけています。

評価分類 I-3 快適な施設環境の確保



- (1) 子どもが快適に過ごせるような環境（清潔さ、採光、換気、照明等）への配慮がなされているか。
- (2) 沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。
- (3) 子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

- ・保育室やトイレ、園まわり等は常に清潔に保たれています。保育室は窓から十分陽光を取り入れることができ、床暖房、エアコンが設置されており、温度・湿度の管理が適切に行われています。おむつ替えは窓際で窓を少し開けて行い、換気に気をつけています。
- ・0歳児の保育室には沐浴槽があり、清潔に保たれています。
- ・1歳児の月齢の高い子どもが2歳児クラスで一緒に活動したり、月齢の低い子どもが0歳児クラスで過ごしたり、子どもの状況によって小集団で過ごせるように工夫したり、可動式の柵で区切る等、活動に合わせて保育室の使い方を工夫しています。食事と午睡の場所は分けています。また、異年齢の交流の場は朝夕の合同保育で、各保育室を活用しています。

評価分類 I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- (1) 子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに応じた個別指導計画を作成しているか。
- (2) 子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。

- 一人一人の発達を考慮して、クラス担任全員で、ねらいを設定し、子どもの様子、食育、長時間保育への配慮、保育士の援助などを記入した個別の月間指導計画を作成しています。子どもの状況に変化のあった場合には職員会議のあと、検討会議として話し合い、見直しています。また、トイレトレーニングや離乳食の見直しなど個別の課題については保護者の意向も確認しています。
- 子どもの家庭での様子や家庭の状況を児童票や健康台帳に記録しています。園では毎月の個人の身長や体重、内科健診、歯科健診の結果を記録しています。鍵のかかるキャビネットに保管し、必要な時に職員は見るできるようになっています。

評価分類 I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- (1) 特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。
- (2) 障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。
- (3) 虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。
- (4) アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。
- (5) 外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。

- 特に配慮を要する子どもについて、保育に必要な最新の情報は神奈川区こども家庭支援課や横浜市東部地域療育センターから、園長を通じて職員へ伝えたり、横浜市東部地域療育センターの要支援児研修に参加した職員からの報告を受け、職員会議中で話し合わせ、職員間で共有しています。
- 開園以来、障害児の入園希望がなく受け入れはありませんが、嘱託医や横浜市東部地域療育センターからの助言を受けたり、発達障害の専門家によるメールの受信やこちらからの問い合わせを受けてもらう体制はできています。
- 全職員に虐待の定義等を会議で周知しています。疑わしいケースがあった時には神奈川区こども家庭支援課や横浜市中心児童相談所に相談し、連携を取る体制はできています。登降園時に親子の様子を見守り、園長は必要に応じて声をかけ、相談に乗るなど配慮しています。
- 食物アレルギーのある場合は子どものかかりつけ医が記載した「アレルギー性疾患生活管理指導表」を提出してもらい、保護者と栄養士、園長、保育士とで話し合って適切な対応を取るようになっています。毎朝、毎食ごとの全体、且つクラス毎の献立確認、給食室との献立確認、受け取りの際の声出し確認、配膳の際は最初に配膳するなどの配慮を行っています。
- 外国籍で生活習慣や文化が異なる場合も、子どもの呼び方や着替えなど生活習慣を尊重し、適切に配慮しています。挨拶をその国の言葉で子どもたちと一緒に言ってみたり、異文化の絵本を取り入れたりとしています。日本語での意思疎通が困難な場合保護者とは翻訳アプリを使ったり、語学に堪能な保育士が話したり、神奈川区役所の通訳ボランティアを依頼したりしています。また、お手紙等はボランティアに頼んで母国語に訳して渡すなど配慮しています。

評価分類 I-6 苦情解決体制



- (1) 保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。
- (2) 要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。

- 要望や苦情を受け付ける窓口として、第三者委員の名前と電話番号が入園のしおりや玄関に掲示され、保護者に周知されています。保護者は第三者委員に直接苦情を申し立てることができます。また、「なんでも言えちゃう箱」という意見箱も設置されています。日ごろより園長は、保護者の様子に気をつけ、会話を交わしており、要望や意見を聞いています。保護者から要望が出た場合は職員会議で取り上げて改善策を検討しています。
- 口頭で出された個々の要望や意見はその都度、職員で話し合い、解決しています。

評価分類Ⅱ－１ 保育内容〔遊び〕



- (1) 子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。
- (2) 遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。
- (3) 動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。
- (4) 子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。
- (5) 遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。
- (6) 積極的な健康増進の工夫が遊びの中でなされているか。

- ・おもちゃや絵本は、子どもが自分で取り出しやすいように背の低い棚に収納されています。子どもが自分のしたいことを見つけて主体的に活動できるよう、コーナーづくりの方法やサンルームの活用方法、十分に遊び込める時間配分等について、日々の振り返りを通して職員間で確認し合い、環境構成のさらなる充実に向けて取り組んでいます。また、子どもの年齢や成長の様子について、職員間で共有し、おもちゃや絵本の入れ替えを行っています。
- ・2歳児がアイスクリームのカップに折り紙などを詰めて遊んでいたことから、お店屋さんごっこに発展し、1歳児が買い物に来て一緒に遊ぶなど、子どもの自由な発想を受け止めて保育にあたっています。観察日には、砂場でケーキを作り友達を呼んで一緒にお誕生日ごっこをしたり、一人でもくもくとコップに砂を詰めてプリンを作ったり、保育士に見守られて子どもが自由に遊んでいる姿がありました。年齢に応じて、しっぽ取りゲームや鬼ごっこ、かくれんぼなどを活動に取り入れ、友達との関わりを通して、子どもが楽しみながら、自然とルールを理解できるよう配慮しています。
- ・プランターでメロンやスイカ、ブルーベリー、オクラ、キュウリ、トマトなどを栽培しています。子どもたちは「はたけ」と呼んで、2歳児が水やりをするなどしています。普段の給食ではなかなか野菜を食べなかった子どもも、自分で収穫したキュウリは、「おいしい！」と、食べたりしています。カブトムシの幼虫を近隣の商店の人からもらい、飼育の体験もしています。最初は怖くて、近寄らなかった子どもが、カブトムシの生長の様子に少しずつ興味を示し、触れるようになりました。
- ・日常的な散歩の際に近隣の商店の人などと挨拶を交わしたり、公園などでは地域の親子と一緒に遊ぶなど交流しています。また、森林公園の白幡の森におやつを持って出かけるなど、子どもたちが地域や自然に触れる機会を積極的に活動に取り入れています。
- ・クレヨンや絵の具、はさみ、のり、折り紙などの道具や牛乳パックや空き箱、梱包材、カレンダーなどの廃材のほか、ドングリや葉っぱなど、様々な素材を用意し、子どもが製作活動を自由にできるよう配慮しています。夏祭りのお店屋さんごっこで使うネックレスをストローで作ったり、お散歩バッグを牛乳パックで作るなどしています。
- ・子どもの気持ちの変化を感じ取り、温かい態度で保育にあたることを職員間で共有しています。子ども同士の小さな揉め事の際には、双方の気持ちを受け止め、代弁するなどして援助しています。午睡後の散歩は、3クラス合同で出かけるなどして、異年齢の子ども同士が日常的に関わりが持てるよう配慮しています。
- ・一人一人の子ども様子の把握に努め、年齢や発達に応じて、全身を使った遊びを取り入れるなどしています。芝生の傾斜や階段を利用して上り下りしたり、室内ではクッションを用いて手足を使った運動ができるように工夫したり、神奈川県マスコットキャラクターのかめ太郎体操やリトミック体操を行うなど、子どもたちが楽しく体を動かせるよう配慮しています。

評価分類Ⅱ－１ 保育内容〔生活〕



- (7) 食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。
- (8) 食事の場、食材、食器等に配慮しているか。
- (9) 子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。
- (10) 子どもの食生活について、家庭と連携しているか。
- (11) 午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。
- (12) 排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。
- (13) 長時間にわたる保育のための環境を整え、配慮した保育が行われているか。

- 子どもの食べる量やペースなど、一人一人の状態の把握に努め個人差に応じた援助を心がけています。苦手な食材が食べられなかった時も、スプーンを持って食べようとする子どもの気持ちを汲み取り、ほめるなどして温かく接しています。食育で栄養士や調理職員に教えてもらいながら、高野豆腐やひじきを水で戻したり、そら豆のさや取りをするなど、子どもたちが食材に直接触れる機会を取り入れ食に関する興味を持てるよう配慮しています。乳児に授乳をする時や離乳食を食べさせる時は、個々の様子や状態に応じて対応するよう職員間で共通意識を持ち対応しています。
- 旬の食材を多く取り入れて、季節感のある献立作りを行っています。ニンジンを動物や星の形にカットしてスープにトッピングしたり、かぼちゃを葉っぱの形にカットするなどして子どもが楽しみながら食事ができるよう配慮しています。食具は年齢や発達に応じて持ちやすさや大きさに配慮して選んでおり、食器は安全性を考慮して強化磁器を使用しています。食具と食器の消耗度チェックは調理職員が行い、必要に応じて買い替えを行っています。
- 栄養士や調理職員が日常的に子どもの食べる様子を見たり、給食日誌に残食状況を記載して好き嫌いなどの把握に努めているほか、子どもの喫食状況について保育士と日々情報交換を行い、献立作りや調理方法の工夫に反映させています。野菜が苦手な子どもが多いこともあり、ホットプレートで野菜焼きそばを子どもたちと一緒に作って、楽しみながら食べることができるようしたり、ニラやニンジン等を入れた野菜の子チミをおやつで提供するなど工夫しています。
- 献立作成のポイントや旬の食材の効用などを掲載した献立表を毎月保護者に配布しています。ひじきサラダなど家庭ではなかなか食べない食材を使用したレシピを保護者の要望に応じて栄養士が伝えたり、掲示するなどして情報提供しています。保護者に給食またはおやつどちらかを選んでもらい、毎年1度、試食をしてもらう機会を作っています。
- 午睡の際、保育士は優しく体をトントンしたり、さすったりして寄り添い、子守唄を歌うなどして子どもが安心して眠りにつけるよう配慮しています。寝付けない子には、「ゴロンしようね」などと体を休めるよう声をかけたり、絵本を読むなどして対応しています。乳幼児突然死症候群（SIDS）の予防対策として、0歳児は5分おき、1歳児は10分おき、2歳児は15分おきに呼吸や顔色などの確認を行い、チェック表に記録しています。
- 子ども一人一人の排泄状況の把握に努め、個人差を尊重して、トイレ誘導等の対応を行っています。家庭や園での排泄等の状況について、双方で連絡ノートに記載し情報交換を行うとともに、送迎時等に直接話をして子どもの様子を共有しています。子どもに負担が無いように保護者と相談しながら、トイレトレーニングを行っています。
- 長時間にわたる保育の際は、子どもの状態を見ながらゆったり過ごすことができるよう配慮しています。夕食は家庭で食卓を囲む大切さを保護者に説明して、18時30分頃に夕食にさしさわりない程度のおやつを提供しています。園での子どもの様子等は連絡ノートに記載しています。また、職員間で連絡表を用いて申し送りを行うとともに、お迎え時の対応をする職員には直接口頭でも申し送りをし、保護者に伝え漏れの無いように努めています。

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【健康管理】



- (1) 子どもの健康管理は、適切に実施されているか。
- (2) 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。
- (3) 感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。

- 毎日の健康状態の観察における留意点が明記されている保健衛生管理マニュアルをもとに、朝の受け入れ時に子どもの観察を行っています。また、保護者から食欲や睡眠の様子などを聞き、状態に応じた対応を行うよう努めています。
- 入園時に既往症や予防接種の状況等を保護者に健康台帳に記入してもらい、入園後も新しい情報を保護者から聴取した際は園長などが追記して職員間で共有しています。子どもの発達に応じて歯ブラシを家庭で準備してもらい、0歳児から食後の歯みがき習慣が身につくよう配慮しています。
- 嘱託医による健康診断と歯科健診をそれぞれ年に2回ずつ実施しています。健診前に保護者から医師への質問等を受け付け、医師からの回答やアドバイスを保護者に報告しています。健診の結果が記載された診断結果カードと歯科健診結果カードを保護者に渡し、必要に応じて受診を勧めるなどしています。内科の嘱託医に電話でアドバイスを受ける等、日常的に連携を取っています。
- 感染症の症状や登園停止基準について明記された一覧表が作成されており、入園時に保護者に渡すとともに説明を行っています。感染症の疑いが生じた際は、保護者に電話連絡しお迎えが来るまで事務室で園長等が対応しています。感染症が発症した際は、玄関に状況を掲示して保護者に周知しています。感染症予防策や対応策についての最新情報は神奈川県子ども家庭支援課などから入手し、職員会議等で周知しています。

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【衛生管理】



- (4) 衛生管理が適切に行われているか。

- 保健衛生マニュアルに洗面所やトイレの清掃手順やおもちゃの消毒方法が明記されています。また、お掃除マニュアルには保育室や園周辺の基本的な清掃方法について記載され、マニュアルに基づき清掃や消毒等が実施されています。また、嘔吐物の処理対応について、保健衛生マニュアルに明記され、職員会議等で周知しています。今後はさらに、衛生管理に関する項目内容を整理して実践につなげられるよう、マニュアルの見直しを職員間で定期的に行うことが望まれます。

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- (5) 安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。
- (6) 事故や怪我の発生時及び事後の対応体制が確立しているか。
- (7) 外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

- ・ プール遊びマニュアル、園外保育マニュアルなどがあり、保育活動中の安全管理について勉強会を行っています。散歩で行く近隣の各公園や散歩ルートについて、留意事項などを記載したお散歩マップを作成し安全に活動が行えるよう職員間で共有しています。震災対策マニュアルには発生時の職員の初動対応等について明記されており、滑り止めマット等を用いて備品等の転倒防止対策を講じています。また、園内や園周辺の安全確認項目が設定された安全点検表に基づき、職員が日々安全確認を行っています。
- ・ 緊急時マニュアルや洪水時の避難確保計画に基づいて毎年避難訓練計画が作成されており、様々な場面を想定して避難訓練や通報訓練を月に1度実施しています。実施後は、訓練内容や反省点等を避難訓練実施記録に記載し、改善点を職員会議等で確認しています。また、救急救命法の外部研修に職員が交代で参加するなどして、緊急時に備える取り組みを行っています。
- ・ 事故やケガの発生時等、緊急時の対応方法や通報手順についてわかりやすくフローチャートが作成されており、病院の連絡先が記載された一覧表とともに事務室に設置され、職員間で共有しています。事故やケガについては、ヒヤリハット、事故報告書に状況や対応、反省点、考察を記載して、職員に周知し改善点を話し合うなど、迅速な対応を行っています。
- ・ 園の玄関は電子ロック錠が設置されています。緊急時には民間の警備会社に通報されるシステムを導入しており、不審者対応訓練を実施して対応策について職員間で話し合っています。不審者情報については、横浜市子ども家庭支援課や近隣の警察署からの情報メールや小学校からの情報を保護者から聞くなどして、職員間で共有しています。

評価分類Ⅱ－３ 人権の尊重



- (1) 保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。
- (2) 必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。
- (3) 個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。
- (4) 性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

- ・ 子どもの思いを受け止め、伝えるタイミングや話し方などに意識して対応することを園長はじめ職員間で共有し保育にあたっています。保育士は子どもへの対応について日々話し合って振り返りを行うなど、より良い保育を目指して取り組んでいます。公園で遊んでいるときや食事中など、子どもの発言や行動に対して、“待つ”“見守る”など、子どもの思いに寄り添って保育士が対応しています。
- ・ 子どもの気持ちの変化を汲み取り、状態に応じてサンルームに誘うなど友達の視線を意識せず、過ごせるようにしています。また、事務室で園長と一対一でゆっくりと話をするなどして、子どもが気持ちを切り替えられるよう配慮しています。保育士がぐずる子を抱っこしてサンルームに連れて行き、子どもが落ち着くまで対応するなどしています。
- ・ 個人情報の取り扱いに関するガイドラインに個人情報の定義や個人情報を安全に管理するための実施概要が明記されており、職員に周知しています。ガイドラインに基づいて入園時に保護者に説明しホームページへの写真掲載などに関する承諾書を記載してもらっています。個人情報が記載された記録などは事務室の鍵のかかる棚に保管管理されています。
- ・ ままごと遊びなどで男女の役割を設定したり、グループ分けを男女別にするなど性差への先入観による対応を行わないことを職員間で共通認識として保育にあたっています。無意識に固定観念で保育をしていないか、日々の振り返りで保育士同士で意見交換のできる環境が作られています。

評価分類Ⅱ－４ 保護者との交流・連携



- (1) 保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。
- (2) 個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。
- (3) 保護者の相談に応じているか。
- (4) 保育内容（行事を含む）など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。
- (5) 保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。
- (6) 保護者の自主的な活動への援助や意見交換を行っているか。

- 入園のしおりに施設の運営方針や保育理念・方針を明記するとともに、どのように保育にあたっていか園の思いが伝わるよう保護者への説明を行っています。運動会で子どもがカメラレンズに向かって走ると家族の笑顔に向かって走っていくのと子どもにとってどちらが嬉しいことなのか、行事等のビデオ撮影における保護者の振る舞いについて一緒に考える姿勢で提言するなど、園と保護者が一体となって子どもの育ちを見守ることができるよう方針に沿って取り組んでいます。
- 日々の保育内容や目的などを掲載した園だよりとクラスだよりを毎月保護者に配布しています。たよりには、子どもの気持ちを大切に成長の様子を見守りながら保育活動を行うことなど、保育方針がわかりやすく伝わるように園の姿勢や思いが記述されています。送迎時での会話や連絡ノートを通じて、保護者に園の方針が理解されているか確認を行っています。
- 子ども一人一人のその日の様子について、連絡ノートに記載するとともにお迎え時に口頭で伝えており、製作活動や給食の様子などの写真を入り口に掲示して保護者が送迎時に見られるようにしています。クラス懇談会は、年に3回実施しており、資料を配布してクラス全体の活動の様子を伝えています。保護者の希望に応じて随時個人面談を実施しているほか、必要に応じて園から保護者に声をかけて個人面談を行うなどしています。
- 保護者からの相談は、送迎時等日常的に対応しており、必要に応じて事務室を使い、保護者が安心して話せるよう配慮しています。保育士が相談を受け付けた際は、園長や主任がアドバイスを行うなどして対応しています。相談等の対応について記録しファイリングして職員間で共有しています。
- 次年度の年間行事予定表を年度末に保護者に配布し、日程等の変更があった際は、お手紙や園だよりで保護者に周知しています。年に一度、「親子ふれあいデー」を実施し、保護者が保育参加できる機会を設けています。保護者から希望を聞くなどして活動内容を決めていて、子どもが日常的に訪れている公園に同じルートで歩いて行ったり、子どもと一緒に遊ぶなどして園での活動を体験してもらっています。
- 運営委員会に各クラスの代表が参加して意見交換を行うなどしています。保護者の自主的な活動等は、行われていませんが、今後、要請があれば園として協力することとしています。

評価分類Ⅲ－１

地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供



- (1) 地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。
- (2) 地域の子育て支援ニーズに応じて保育所の専門性を活かしたサービスを提供しているか。

- 地域の保育園から保育士等が参加して行われている神奈川区子育て支援連絡会の会議や研修などに主任や保育士が参加し、他園の地域に向けた取り組みや地域の状況等について学んでいます。職員会議等で情報を共有し、地域の子育て支援に向けた園の取り組みについて話し合っています。今後は、地域の保護者や子どもと触れ合える機会を増やすことを検討し、その機会を園に対する要望等、地域の子育て支援ニーズを把握するために有効的に活用するなど、さらなる取り組みが期待されます。
- 一時保育や交流保育、施設開放など、地域の子育てを支援するサービスや園の専門性を活かした育児講座の開催等は実施されていません。今後は、地域の子育て支援ニーズに応じたサービス提供の実現化に向けて課題点を整理していくことが望まれます。

評価分類Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能



- (1) 地域の保護者や子ども等への情報提供や育児相談に応じているか。
- (2) 相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。

- 散歩で出かける公園等で、地域の親子と顔見知りになり、地域の子どもと園児と一緒に遊んだり、地域の保護者と保育士が会話を交わすなど交流しています。会話の中でトイレトレーニングの方法など育児に関する相談事を受け付けることもあり、保育士がアドバイスするなどしていますが、地域の保護者に向けた育児相談事業は、実施されていません。
- 横浜市地域療育センターや横浜市児童相談所などの関係機関の連絡先等がリスト化され、職員間で共有しており、園長が主に窓口となって日常的に連携が取れるようになっています。相談事業の実施が実現した際には、相談内容に応じて各関係機関との連携が取れる体制が整えられていますので、曜日や時間帯などを設定して地域の保護者からの育児相談を定期的に受け付けられるよう、今後のさらなる検討と取り組みが期待されます。

評価分類Ⅳ－ 1

保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ



- (1) 保育所に対する理解促進のための取り組みを行っているか。
- (2) 子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。

- 園で開催するボランティアによるピアノや弦楽器の音楽会に地域の保護者や子どもを招待して、園児と一緒にクリスマスソングを聞くなどしているほか、卒園後の連携園である近隣の幼稚園に出かけて、プールで遊んだり、行事参加などを通して定期的に交流するなどしています。日常的な散歩等の際には、保育士が率先して地域の人と挨拶や会話を交わして、子どもたちが自然に地域の人と触れ合えるよう配慮しています。また、お芋掘りで取ってきたさつまいもを近所の人にプレゼントするなど交流しています。

今後は、地域に向けて施設を開放したり、絵本などを地域の人に貸し出すなど、地域へ貢献する取り組みを通して園に対する理解促進を進められるよう、さらなる検討が期待されます。

- 子どもたちは、かながわ地区センターのプレイルームや熊野神社などに出かけたり、州崎神社で行われる町内会のお祭りを見に行ったりしています。また、2歳児は給食で使う野菜やプランターで栽培する花の種を近隣の商店に買いに出かけるなど、地域の施設や商店を利用する機会を積極的に活動に取り入れています。近隣の保育園の5歳児に運動会で踊ったエイサーを見せてもらったり、木琴やシンバルの演奏を聞かせてもらったり、一緒にダンスをして遊ぶなどして交流しています。

評価分類Ⅳ－ 2 サービス内容等に関する情報提供



- (1) 将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。
- (2) 利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。

- 園のホームページに理念や保育方針、入園の案内等を掲載しているほか、園での日常的な活動内容や行事等の様子を写真を用いて掲載し、園の特色がわかりやすく伝わるよう工夫しています。また、横浜市こども青少年局のホームページ“はびねすぽっと”や神奈川区こども家庭支援課のホームページに園の情報を提供しています。

- 園の利用方法や見学申し込み等の問い合わせについては、主に園長と主任が対応しています。見学日時については、午前10時、午後4時など、子どもの様子を見てもらえる時間帯を勧め、利用希望者の意向を聞いて設定しています。見学案内は主に園長が対応しており、園の保育方針や利用条件について、パンフレットに基づいて丁寧に説明を行っています。

評価分類Ⅳ－3 ボランティア・実習の受け入れ



- (1) ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。
- (2) 実習生の受け入れを適切に行っているか。

- ボランティア受け入れマニュアルに受け入れ手順や受け入れ窓口を園長、主任とすることが明記され、職員に周知しています。また、ボランティアの心得や守秘義務等の留意事項が明記された、文書「実りあるボランティアのために」をもとにボランティアに説明を行っています。
- 手作りのクリスマスリースや童謡の CD を卒園児の家族や近隣の人にプレゼントしてもらうなどしており、周囲からの好意に感謝する気持ちを持って活動につなげています。実際に子どもと触れ合うボランティアの受け入れは少ない現状となっていますので、今後は、積極的なボランティアの受け入れを実現するための取り組みが期待されます。
- 実習生受け入れマニュアルに受け入れ手順や実習までの流れ、実習内容について明記され、受け入れ担当は園長、主任が行うこととしています。マニュアルに基づいて実習生の対応方法等を職員間で確認しています。また、実習生としての心構えや子どもへの対応方法、守秘義務などが明記された、文書「実りある実習のために」をもとに実習生に説明を行っています。
- 専門学生の 1 日体験学習を受け入れており、実習学生との意見交換を行って体験内容等を記録していますが、一定の期間を設けた実習は行われていません。マニュアルに定義しているように次世代の保育士育成の観点から実習生の積極的な受け入れを検討し、自らの保育を見直す機会ととらえて実習生の指導が行えるよう今後のさらなる取り組みが期待されます。

評価分類 V-1 職員の人材育成



- (1) 保育所の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。
- (2) 職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。
- (3) 非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。

- 必要な人材がバランスよく確保できるよう園長と主任で相談しています。保育理念や方針を踏まえた新人・中堅・主任の期待される保育士像や役割・人材育成の方法・昇給や昇任の仕組み等について、明文化することが望まれます。また、個々の職員が年度の初めに資質向上に向けた年間の目標の設定を行うことが期待されます。
- 今年度は「その行事は誰のもの？」をテーマに各行事について、本来の意味、どんなねらいがあるのか、子どもの姿、制作物などについて何回かに分けて話し合う研修を持ったり、保育方針につながる「竹のようにしなやかな心」とはどういうことを意味しているのかを話し合ったりしたほか、毎月子どもの様子を踏まえて事例検討をする研修を行っています。また、横浜市私立園長会主催のキャリアアップ研修に参加したり、大学の栄養士による給食研修に参加したり、横浜市東部地域療育センターの実施する研修で他保育園の現地研修に参加しました。研修に参加した職員は報告書を提出し、回覧して、参加していない非常勤職員にも成果を活かせるようにしていますが、研修内容を常に見直すまでには至っていません。
- 非常勤職員の指導担当は園長と主任で行い、職員間のコミュニケーションが図られるよう努めています。長年勤務している非常勤職員が多く、安定した保育が行われていますが、今後は、非常勤職員が内外の研修に参加できる仕組みを作ったり、非常勤職員の職員会議への出席などを検討するなど、更なる資質向上に向けた取り組みが行われることが望まれます。

評価分類 V-2 職員の技術の向上



- (1) 職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。
- (2) 保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を評価し、改善に努める仕組みがあるか。
- (3) 保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。

- 毎月、職員は個々に振り返りシートを用いて、保育スキルの目標等を定めて振り返りを行っています。シートには他の職員の良い所に気づいたことを記載する項目があり、職員会議で、発表、評価をしています。また、姉妹園と交換保育を行い、良い気づきの場としています。神奈川区の保健師による「嘔吐処理等感染症対応」の勉強会を行ったり、元公立園長によるわらべ歌や環境についての指導を受けたり、事例検討会を行っています。
- 月案、週案、日案には保育の振り返りができるように自己評価の欄があり、定型化されています。振り返りは計画で意図した保育のねらいが達成されたか、記入しています。子どもの活動や結果だけでなく、子どもの成長や意欲、取り組む過程などについても保育士同士で話し合い確認し、結果を次の計画に活かしています。
- 保育士の自己評価は「基本項目」「子どもとのかかわり」「健康・安全」「人とかかわり」「保育環境」「保護者とかかわり」等 95 項目にわたり、1 回目・2 回目・3 回目と記入するようになっていきます。年度末に全員で話し合い共有しています。保育所としての自己評価もおこなっており、保護者が手に取れるように置いてあります。地域への働きかけなど課題を明らかにし、改善するよう取り組んでいます。

評価分類V－3 職員のモチベーションの維持



- (1) 総合的な人事管理が行われているか。
- (2) 本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。

- 期待される職員像や研修制度に基づく職員の育成や配置、キャリアパスなどの活用、処遇に関する人事基準を職員の意見を取り入れ作成することが期待されます。今後は自分自身のキャリアパスを考えることができ、モチベーションを高めることができる総合的な人材管理がされることが期待されます。
- 保育や保護者対応など職員に権限を委譲して自信と責任を持たせています。園長は職員と年に2回面談をし、職員の満足度や要望を把握しています。
今後は職員一人一人が自らの役割と課題を認識できるよう、経験や能力、習熟度に応じた役割を期待水準として表し、職員が将来のビジョンを持てるようになることが期待されます。

評価分類VI-1 経営における社会的責任



- (1) 保育所として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。
- (2) 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取り組みが行われているか。
- (2) 保育の質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。

- ・園の倫理規定があり、職員に周知しています。園長は、他施設での個人情報における不適切な事例や保育中の不適切な対応などの情報があればタイムリーに取り上げ、職員に行わないように教育・指導しています。
今後は経営・運営情報が公表されることが望まれます。
- ・経理規定や事務規定、服務規程など、職務分掌と権限・責任が明確にされ、明文化され、職員に配布しています。また、理事長・役員による内部監査、会計士による外部監査が毎月行われ、経営改善のための取り組みを行っています。
- ・トイレットペーパーの芯や牛乳パック、ミルク缶、ペットボトルのふたなどの廃材を利用して製作物や手作り玩具を作成したり、不要になった印刷物を裏紙として使用しています。洗濯の際にはせっけんを使ったり、至適温度・湿度を決め、環境配慮の取り組みを行っています。園全体で取り組みを明確にするため、業務計画に入れるなどすることが期待されます。

評価分類VI-2
施設長のリーダーシップ・主任の役割等



- (1) 保育所の理念や基本方針等について職員に周知されているか。
- (2) 重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。
- (3) 主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。

- ・園の運営理念、運営方針が書かれたものを職員に配布しています。園長は折に触れて理解を促すための説明をし、職員会議では話し合いをしています。運営理念、運営方針が、具体的に保育にどう反映しているかを常に問いかけて、職員の理解を深めています。
- ・横浜保育室から認可園への移行や姉妹園との土曜日の合同保育の実施については、保育士・調理員・事務職全員で話し合いを重ね、個々の意見を出し合い、決定しました。また、保護者には全体説明会や懇談会で経過を説明し、意見交換をし、実施しました。
- ・主任はクラスを持たず、各保育室で保育の支援をするなどして、個々の職員の業務状況を把握しています。主任は職員と園長の間に入って、職員が良好な状態で仕事に取り組めるよう相談に乗ったり、助言したり、園長とも連絡を密にしてパイプ役になっています。また、新人保育士に寄り添い、反省ノートを共有し、交換日記のようにして、コメントを記載したり、助言・指導をしています。
- ・スーパーバイザーとして、主任クラスの職員を計画的に育成するための人材計画を整備することが期待されます。

評価分類VI-3 効率的な運営



- (1) 外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。
- (2) 保育所運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。

- 園長は事業運営に影響のある地域の情報や国の動向を新聞や教材会社の運営向けの月刊誌などから収集・分析しています。園長は保育所保育指針の改定についての研修に参加し、主任と話し合い、重点改善課題として、アクティブラーニングについて取り上げ、会議でも話し合い職員間で共有し、取り組んでいます。
- 法人の方向性については法人の会議だけでなく、職員会議でも取り上げ、全職員で共有しています。より具体的に実現可能な計画、後継者の育成などの方法などを明記していくとなお良いと思われます。

◆利用者家族アンケート◆

【実施概要】

- 実施期間：平成30年11月1日～11月15日
- 実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、
評価機関に直接郵送してもらった
- 回収率：配付 27件、回収 24件、回収率 88.9%

【結果の特徴】

問1の「保育目標・方針」は87.5%の方が知っており、その72.7%の方が賛同しています。

問2～問7で、「満足」の回答が95%以上の項目は、次のとおりです。

- 問4 「給食の献立内容について」・・・・・・・・100.0%
- 問4 「クラスの遊びや活動について」・・・・・・・・95.8%
- 問4 「子どもが戸外遊びを十分にしているかについて」・・・・・・・・95.8%
- 問4 「自然に触れたり地域に関わるなどの園外活動について」・・・・・・・・95.8%
- 問4 「基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについて」・・・・・・・・95.8%
- 問7 「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」・・・・・・・・95.8%

そのほか、問4の「遊びを通じて友だちや保育士との関わりを十分もっているか」の項目で、91.7%以上の「満足」となっています。

問2～問7で、「不満度」(「不満」+「どちらかといえば不満」)の回答が

問2「園の目標や方針についての説明」「入園時の面接などでお子さんの成育歴を聞くなどの対応」「保育園での1日の過ごし方の説明」「費用やきまりにかんする説明」問4「昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているか」「保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には」問5「施設設備について」問6「保護者懇談会や個別面談による話し合いの機会について」「保護者からの相談ごとの対応」問7「要望への対応」の項目でそれぞれ4.2%でした。

保育園の総合満足度は、「満足」87.0%、「どちらかといえば満足」13.0%を合わせると100%となり、非常に高い満足度となっています。

自由記述欄では、「先生は優しく丁寧で、子どもも楽しそうで良い環境です」「園の方針にのっとり一人一人を大切にしてくれる保育園だと思います」「小さい園なので情報共有がしっかりされていると思いました」などの意見のほか、「保護者用の名札があればいいと思う」などの意見がありました。

たいせつ保育園 利用者家族アンケート集計結果

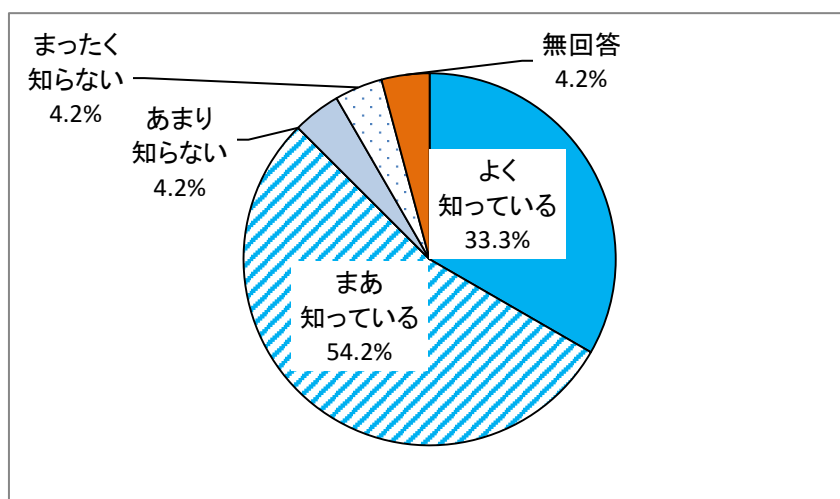
実 施 期 間	平成30年11月1日～11月15日
調 査 対 象	利用者家族
配 布 世 帯 数	27 件
有 効 回 答 数	24 件
回 収 率	88.9 %

お子さんのクラス	0歳児 クラス	1歳児 クラス	2歳児 クラス	3歳児 クラス	4歳児 クラス	5歳児 クラス	無回答	(人)
	6	8	10	0	0	0	0	

※2人以上在籍の場合、下のお子さんのクラスで回答

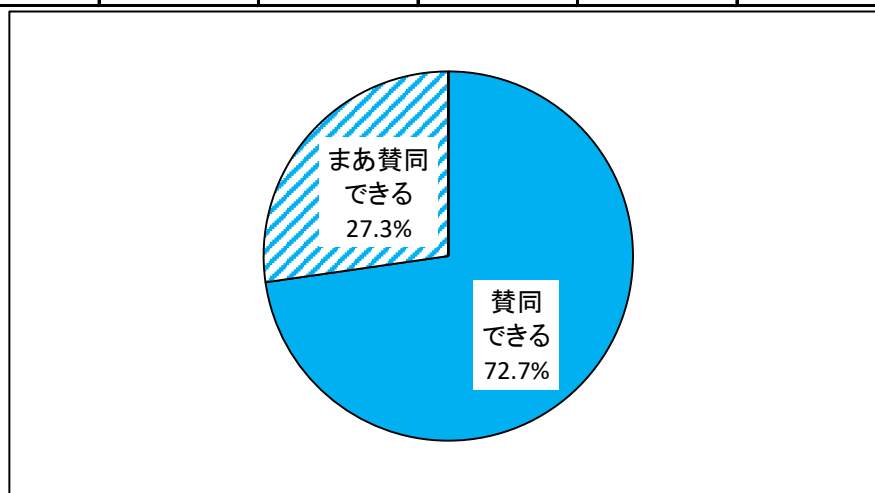
問1 保育園の基本理念や基本方針について

	よく 知っている	まあ 知っている	どちらとも いえない	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答	(%)
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	33.3	54.2	0.0	4.2	4.2	4.2	



1 よく知っている 2 まあ知っている とお答えの方へ

付問1 あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	賛同 できる	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同 できない	無回答	(%)
	72.7	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	



問2 入園する時の状況について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
見学の受け入れについては	45.8	45.8	0.0	0.0	8.3	0.0	
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	54.2	41.7	0.0	0.0	4.2	0.0	
園の目標や方針についての説明には	45.8	50.0	4.2	0.0	0.0	0.0	
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	66.7	25.0	4.2	0.0	4.2	0.0	
保育園での1日の過ごし方についての説明には	79.2	16.7	4.2	0.0	0.0	0.0	
費用やきまりに関する説明については	75.0	20.8	4.2	0.0	0.0	0.0	

問3 保育園に関する年間計画について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
年間の保育や行事についての説明には	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	33.3	58.3	0.0	0.0	8.3	0.0	

問4 日常の保育内容について「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
クラスの活動や遊びについては	95.8	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	95.8	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
園のおもちゃや教材については	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	95.8	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	91.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	70.8	25.0	0.0	0.0	0.0	4.2	

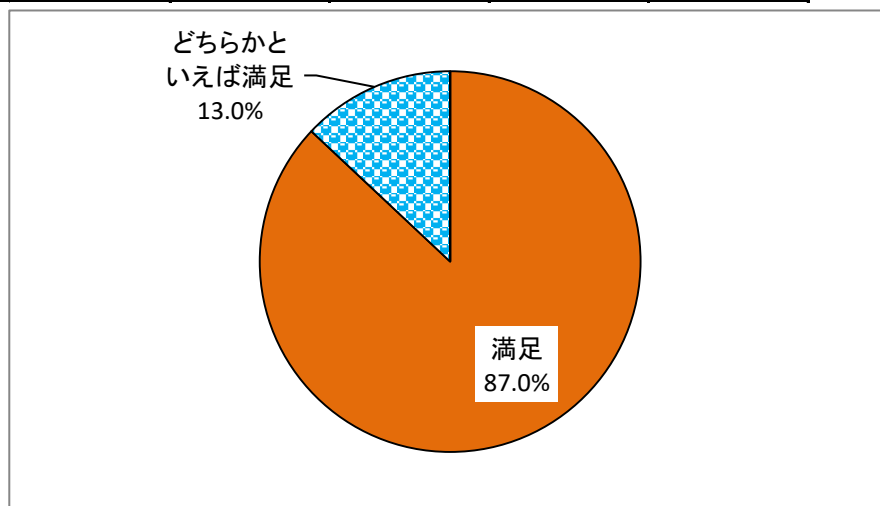
「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
給食の献立内容については	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについては	95.8	0.0	0.0	0.0	4.2	0.0	
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	79.2	16.7	4.2	0.0	0.0	0.0	
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	54.2	29.2	0.0	0.0	12.5	4.2	
お子さんの体調への気配りについては	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	87.5	8.3	4.2	0.0	0.0	0.0	

問5 保育園の快適さや安全対策などについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
施設設備については	41.7	50.0	4.2	0.0	4.2	0.0	
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	79.2	20.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	70.8	29.2	0.0	0.0	0.0	0.0	

問6 園と保護者との連携・交流について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	62.5	33.3	4.2	0.0	0.0	0.0	
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	79.2	20.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	70.8	25.0	0.0	0.0	0.0	4.2	
保護者からの相談事への対応には	75.0	20.8	4.2	0.0	0.0	0.0	
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	54.2	29.2	0.0	4.2	12.5	0.0	

問7 職員の対応について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
あなたのお子さんが大切にされているかについては	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
あなたのお子さんが保育園生活を楽んでいるかについては	95.8	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	50.0	16.6	0.0	0.0	29.1	4.1	
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
意見や要望への対応については	70.8	25.0	4.2	0.0	0.0	0.0	

問8 保育園の総合的評価	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	(%)
総合満足度は	87.0	13.0	0.0	0.0	0.0	



◆利用者本人調査◆

【実施概要】

■実施日時：平成 30 年 12 月 20 日

■実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また、会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

●0歳児クラス

登園後、保育室に4人の子どもが並んで座って、保育士に絵本を読んでもらっています。お話を聞きながら、立ち上がって、「あ〜！」と絵本を指差ししたり、笑いだしたり、みんな絵本に見入っていました。朝の歌を歌ったあと、ジャンパーを着せてもらい、帽子をかぶって散歩に出かけました。

椅子に座ってエプロンを付けてもらい、みんなで「いただきます」をします。右手にスプーンを持って、左手でおかずを食べている子や保育士にすくいやすいようにおかずを集めてもらってスプーンを使って食べている子もいます。「もぐもぐね」、「おいしい、おいしい」と、保育士は声をかけながら、一人一人のペースを見ながら援助しています。食べ終わった子から、オムツを替えてもらい、新しい洋服に着替えさせてもらいます。保育士は、子どもを膝の上に座らせて、声をかけながらズボンをはかせています。着替えが終わると、寝転んで、絵本を見たりしていました。まだ食べ終わらない子もいますが、保育士は急がせることなく、ゆっくりとスプーンを子どもの口に運んでいました。全員が食べ終わると、保育士が床を丁寧に拭いて、布団を敷きます。布団の上にゴロンと横になりタオルケットをかけてもらいます。電気を少し暗くして保育士が優しく体をトントンしているうちに、みんな眠りに入ったようでした。

●1歳児クラス

2人ずつ手をつなぎ、散歩に出かけます。近隣のお店の人に「いってきま〜す」と挨拶をして出発しました。5分ほど歩いて広場のある反町公園に着きました。「見えないところには行かないで、遊びましょう」と、保育士の話を聞いてから、遊び始めます。なだらかな斜面を元気に駆け上がったり、スロープを駆け下りたり、転んでしまった子もすぐに立ち上がって走り始めるなど、みんな思い切り体を動かして遊んでいます。少し離れていってしまう子どもがいると、「あ〜、オオカミさん、来ちゃうかも…」と、保育士が声をかけ、「森のこみち…」と歌い出し、オオカミ役になって、子どもたちを引き寄せていました。

保育士がエプロンの入ったボックスを持ってきて、「〇〇ちゃんのは、どれだっけ？」と言うと、ボックスの中をぐるっと見渡し、「これ！」と言って、自分のエプロンを取り出します。「これは、△△ちゃんのもの！」と、友達のエプロンも覚えていて、その子のところまで持っていき、渡してあげています。保育士に「どうぞしてくれたのね。ありがとね」とほめてもらいました。保育士が「今日のメニューは、ハヤシライスです」と言うと、「イエーィ！」と歓声が上がりました。みんなで「いただきます」をして食べ始めます。保育士は「グリーンピースだよ」、「ハムも入ってるね」などと、一人一人の様子を見な

がら、声をかけています。時々手づかみになったりしながら、スプーンを使って上手に食べ進め、お代わりをしている子もいました。

●2歳児クラス

「今日は、公園にお散歩に行きます。出かける準備をする前にトイレに行きたい人は言ってね。」と保育士が言うと、「は～い！」と元気に返事をしています。靴下の入ったボックスを保育士が持ってくると、自分の靴下を取って、はいています。保育士と手をつないでトイレに行く子や「行かない」と保育士に伝えている子もいます。ジャンパーを着るのも帽子をかぶるのも、できるところまで自分でして、保育士が「上手にできたね」と声をかけると嬉しそうにスキップしていました。ぐずってなかなか準備が進まない子がいます。保育士が膝の上に座らせて、「寒いから、ジャンパー着ようね」と優しく声をかけながら、対応しています。靴を履いて待っている子も心配そうにこちらを見えています。みんなが玄関の前にそろると、保育士が「メロンさん、出発進行！」と言ってみんなで「エイエイオー！」と、声を合わせて歩き始めました。パン屋さんの前を通ると、お店の人が手を振ってくれます。出かける前にぐずっていた子も笑顔で手を振り返していました。夏みかんの木を見て、「みかん～」、電車が通ると、「でんしゃだ～」、カラスを見つけると、「カァ、カァ、カァ、」、「〇〇ちゃん、カラスになっちゃったの？」などと、楽しそうに会話しながら歩いていきます。

20分ほど歩いて東神奈川公園に着きました。滑り台に向かって走り出したり、恐竜の形をした大型遊具に登ったり、友達と追いかけてこのように広場を走り回ったり、自由に遊び始めました。砂場では、バケツに砂を入れて、いっぱいになるとひっくり返してケーキに見立て、「ハッピーバースディ」を歌っています。砂場の縁石にコップを並べて端から順番にシャベルで砂を入れている子がいます。「何を作ってるの？」と聞くと、「ぶりん～！」と教えてくれました。ひっくり返してプリンができあがると、「できたよ！」と保育士を呼びに行き、「いただきます～。おいしい！」と、保育士に食べてもらいました。帰り道は、次の日のお楽しみ会で歌うクリスマスの歌をみんなで歌いながら帰りました。

◆ 事業者コメント ◆

初めての受審でした。

説明を受ける前までは不安がありましたが、説明を聞き、色々な角度から保育・運営を見直すいい機会と思えました。

一人ひとりで行った自己評価からグループでの話し合い、そしてひとつのものにまとめるまでには時間もかかりましたが、額を合わせ話し合えた時間はとても良い時間になりました。

かっこつけても意味がないから正直に評価し、次につなげよう！と気持ちを話し合ったりもしました。

評価委員の方とのヒアリングでは、項目ごとに深く話を聞いて下さり、色々な考え方を学びました。

客観的に保育や運営を見直す事が出来て、とても良い機会でした。

保護者の皆様からも、とても良い評価を頂き励みになりました。

これからも 職員一同 精進していきます。ありがとうございました。

園長 高橋 雪乃

福祉サービス第三者評価 評価機関

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 17 番地 金井ビル 201 号室

TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118

URL : www.yresearch-center.jp/ E-mail : top@yresearch-center.jp



かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号

川崎市福祉サービス第三者評価認証機関 第 14 号

横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01

東京都福祉サービス第三者評価認証評価機関 認証番号 機構15-232

全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 2510-002-02
